

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第48回放送の概要 (2012年4月28日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 石川遼です。今僕たち若者の献血が減っています。僕たちが支えることで生きていける命があります。Love in Action、日本赤十字社。献血年齢の拡大や英国滞在歴の制限緩和など、採決基準が一部改正されています。詳しくはWEBへ。

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正12年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」にちなみ、清盛コーヒーを販売中で、「清盛茶屋」の運営にも携わっています。電話は078-671-0135です。

1. オープニング

「ゆうかりに乾杯」は平成21年4月に放送を開始し、満3年を迎えることが出来ました。当初は30分番組でしたが昨年7月より55分番組に変更になりました。当番組は毎月第4、5週の土曜日に放送しており、本日の放送が48回目で100回を目指して頑張ります。

2. ゲストコーナー(1): 辻 信一さん (55 陽会)

(株) 環境緑地設計研究所の統括研究員をされています。第5回放送に出演されており、その時は神戸震災復興記念公園(みなとの森公園)が建設中であり、その後2010年1月17日にオープンした。

場所は税関の東側、元JR貨物神戸港駅の跡地に出来たもの。コンセプトは100年間作り続ける公園である。

公園や建物は作ってしまうと段々悪くなるしかないの、段々良くしていくという意味である。完璧を目指して作るどこかで失敗が起きるが、それを修正出来るようにしていくことにより、いいものが出来あがっていくと思っている。

他の場所でもこのような考え方を採用し、皆まで作るなど言っている。また公園を利用する人が利用計画を作っていくことにしている。スケボーやマウンテンバイクをしている若者を集め、意見を聞くだけでなく一緒に公園づくりをして行った。自分たちの遊ぶエリアだけでなく公園周辺の雑草取りなどをしてもらった。若者は今まで草抜きまでは言われたことがなかったと言いながら一生懸命作業をし、公園の維持管理に参加している。イベントでは場所を占有的に使用するの、知らずに来た若者との間でトラブルが発生したことがあり、イベントの1か月前にはポスターなどで知らせるよう改善している。公園が避難場所であるため、防災訓練



として若者の炊き出し訓練をしている。小さなイベントとして、清掃に参加する 20~30 人に対し作る量を考え、調理し、カレーなどを作ってもらったが段々上手になってきた。

阪神大震災の復興のまちづくり事業としては、松本地区、森南地区、新開地再開発、浜山の共同建て替えに関わった。特に松本の分譲マンションの建て替えは、地権者の同意が法的にはすべてでなくて良いが、実質的には全員の同意が必要で大変だった。また長田区内の大きな公園、西代公園、海運双子池公園、わかたか公園、二葉公園、若松公園などの計画づくりをさせてもらった。松本通のせせらぎは、地域が火事で焼失したため、住民から「あの時水さえあれば・・・」という声があったので作ることにしたものである。鈴蘭台の下水の高度処理水が湊川に流れ込むことになっていたの、それを少し延長してもらい、水を引き込んだ。復興のシンボルとして見学者が多い。松本地区の復興まちづくりは、個性のある若いリーダーがおられたので出来たことである。

3. ミュージック：セリーヌ・ディオン「マイハート・ウィル・ゴー・オン」

今年はタイタニック沈没から 100 年ということでこの曲を選びました。当時の映画がジェームス・キャメロン監督により 3D で復活し、公開されています。

4. ゲストコーナ（2）

東日本大震災の支援として訪問した地域としては、丁度 1 年前の今日（4 月 28 日）に石巻へ行き、そこから岩手に上がり、遠野、釜石を訪問した。石巻では石巻復興支援ネットワークの仲間と活動している。その他南三陸町、東松島、岩手県山田町も訪問した。神戸の経験を生かし復興まちづくりのお手伝いが出来ないかと思い被災地を訪問したが、地域の方と細かな話が出来るまでには中々至らなかったが、先般やっと石巻の雄勝地区の 1 つの集落と話をしましょうという段階になった。訪問したのは神戸復興塾・神戸まちづくり研究所として、神戸復興塾は、阪神大震災後にまちづくり専門家、学校の先生、医者、ジャーナリストなどが集まって情報や意見の交換の場としてできた。今回の震災で率先して東北支援に取り組んだ。神戸で何が出来るかを考えるため、毎月 11 日に「神戸復興塾 3.11 支援集会」を開催している。次回の 5 月 11 日は神戸市の危機管理センターの会議室で行われる。専門家、行政、ボランティアの意見交換の場である。神戸で出来ることとしては、例えば石東直子さんは神戸に避難して来た方々に集まっていただき、生活状況を聞いたり、気分転換のサポートなどを行っている。避難されている方は横の連絡が出来ないので、集まる機会を提供することにより知り合いが出来ることになる。支援集会の中心テーマは時間とともに変わり、8 月頃には仮設住宅の話、最近は仮設店舗や復興まちづくりの話が加わってきた。自分たちが行っていない現地の様子がわかるのが大きなメリットである。

阪神大震災と比べて被災状況の違いについて感じたことは、神戸の場合は淡路から大阪近くまでであるが、東日本大震災は千葉・福島から青森までの約 500 km に及び、亡くなった方も非常に多く、津波により全てが無くなってしまふという被害の凄さには圧倒されてしまった。復興をどのように進めたらいいのか悩んでしまい、まだまだ先が見えないところがしんどいところである。各市町の復興基本計画は昨年末には大体出そろったが、具体的な実施計画は策定中でまだ殆どのところが出来あがっていない。区画整理をするには都市計画決定の手続きが必要であるが、なかなかそこまでたどりついていない。神戸の場合の都市計画決定は 2 段階に行われ、初めに区域と主要な道路を決め、次に細かなところは地域と行政が相談して決めた。その地域との相談の場に辻さんは派遣されて行った。神戸市の場合、まちづくり計画を住民と一緒にあって検討する技術者がたくさんいたが、東北の場合非常に少ないので進捗が非常に遅いと思う。被災者の立場からは、どの事業で自分たちが復興できるのかが極めてわかりづらい。神戸と違い住民は行政の動き出すのを待っているような感じがする。神戸は震災 2 カ月後に都市計画決定がされた。住民は何も知らなかったが、その後住民の意見が反映されることがわかり前に進んだ。東北の場合行政に人が少ないこと、住民と直接話を進めるコンサルタントも少ないことから早く前に進めることが難しい。平成 24 年度の 4 月になって全国の自治体からの応援職員も増えるので行政の体制がやっと整い、動き出すと思っていたがその通りになったようだ。地元の住民には 4 月からきっと動き出すので準備をしておくよう話してきた。住民の意思をまとめる地域のまちづくり協議会は、行政から作

ってくださいとお願いしている段階である。今作ろうとしている、ある町のまちづくり協議会は地域の代表者で構成するとしているのは問題があり、住民、事業者、不在地主を含めすべての関係者が構成員であるべきであることを指摘してきた。その中から役員を選び行政と折衝することになる。代表者だけで構成すると、後で自分は知らなかったという人がたくさん出てくるので事業が進まなくなる。石巻の雄勝の浜で集まった住民の一人一人に意見を聞いたが全員が違う意見であった。すべての意見を出来るだけ実現するにはどうすべきかを次回に相談することにしてきたので5月5日に行くことにしている。このようなきめ細かい取り組みを、全域でどのようにやっていくかが大きな課題である。

東北大震災の支援として、義援金や物産の購入程度しか出来ていない神戸人にとって今後どのような支援が出来るかについては、まず現地に行くことが大事であり、現地の人にも来てほしいと言っている。阪神大震災の場合も見に来てほしいと思ったし、来た人に一生懸命解説してきた。また修学旅行で神戸の復興を見てもらう活動もいまだにやっている。人と防災未来センターは東日本大震災以降訪問者が大幅に増えている。東北もぼちぼち体制が出来つつあり、震災の語り部も増えている。現地へ行き見て話を聞くことが大事である。今、南は宮城県亘里町から北は岩手県大槌町まで花の種を撒いて歩くキャラバンを計画中である。

5. なかちゃんの「こぼれた話、こぼれなかった話」：丹波は「ジュラシック・パーク」だ！

あの有名な「ジュラシック・パーク」がこの近くの丹波地域にあるのを知っていますか。恐竜の化石が発掘される場所は、日本では、そんなに多くありませんが、ここ丹波の「篠山層群」と呼ばれる地層からは6年前から日本のジュラシック・パークとして注目を集めています。

- (1) 2006年8月7日午後、加古川水系篠山川の川代溪谷（丹波市山南町上滝）に化石を追い求めていた地元の足立氏（県立高校の元先生）と村上氏（共に丹波市在住）が、篠山層群（篠山市の篠山盆地、丹波市山南町東部に分布する白亜紀前期の陸成層）と言われている中生代白亜前期（1.15億～0.97億年前）の泥岩層の表面付近に珍しい化石を発見。
- (2) 9日午後3時頃に棒状の化石等を近くの兵庫県立人と自然の博物館に持ち込みました。博物館の三枝主任研究員の鑑定を仰いだ結果は、やはり恐竜の骨とのこと。
- (3) 翌10日に博物館から3名が試掘を実施、採取した10数点の化石に約2か月かけてクリーニング作業を施し、その骨類は、草食恐竜ティタノサウルス類の化石及び獣脚類の歯と想われた。篠山層群からは初めての恐竜化石の産出である。
- (4) 関係機関を交えた調整が進められ、本格的発掘調査の実施と発見場所の保護対策等が討議された。元日の地元新聞報道に押されるように行った緊急記者会見。化石の概要・今後の発掘計画等について公式発表。
- (5) 2007年1月から本格的な第1次発掘調査（2007.1.25～3.31）が始まりました。以後、毎年発掘調査が津図けられており、2012年度の第7次発掘調査が近々始まります。
- (6) 丹波竜（竜脚類ティタノサウルス形類）の化石が2006年に発見されて以来、篠山層群では、獣脚類ティラノサウルス類（T-rex、肉食恐竜）、草食恐竜の有名なトリケラトプスにつながる基盤的ネオケラトプス類（角竜類）、背中が骨で覆われた草食恐竜「鎧竜類（アンキロサウルス類）」の歯の化石、獣脚類の恐竜（テリジノサウルス類）の下あご歯の化石、二足歩行の羽毛恐竜（デイノニコサウルス類）の化石、鳥類に近い恐竜（デイノニコサウルス類）など8グループ、ほか哺乳類、トカゲ、小動物の化石、が次々と見つかっています。しかも、この様な多種の化石が見つかるのは、福井県・岐阜県の手取層群と熊本県の御船層群ぐらいで、篠山層群は特に化石が密集していることが特徴です。

地元小学生中学校高校生たちが体験発掘会や学校課外活動の一環で、化石の発掘体験を続けています。鎧竜類恐竜（アンキロサウルス類）の歯の化石を、また同じく地元の方が獣脚類恐竜（テリジノサウルス類）の歯、カエルの全身化石を見つけたり、最近では、篠山層群内の別の県立公園内でも化石密集地帯を窺わせる発見の発表も相次ぎ、恐竜の主なグループが丹波にいたことを窺わせます。正に、篠山層群を抱える丹波地域は「ジュラシック・パーク」なのです。

- (7) いま、発掘された恐竜の化石や、その作業などが見学・体験できる場所は次の3箇所です。

- ①丹波で発掘された恐竜化石などを展示、化石の取り出し作業などが見学できる「兵庫県立人と自然の博物館」（三田市スラワータウン駅前）。今日28日から「6年間の軌跡・特別企画展」
 - ②丹波竜のクリーニング作業の公開や、丹波竜の化石やレプリカ・関係資料などを展示している「丹波竜化石工房」（丹波市山南町）
 - ③恐竜発見地の岸に残されていた村営発電所の跡。地元の貴重な産業遺産・近代化遺産を公開するとともに、恐竜発見の地層なども間近に見れる恐竜館「丹波市旧上久下村営上滝発電所記念館」（丹波市山南町）
 - ④発見地に隣接して化石発掘体験（有料300円）に参加できる「元気村かみくげ」
- (8) 丹波市は、古今、田舎の代名詞“丹波篠山”の地に隣接した過疎と高齢化が進む地域でしたが、一躍この恐竜ブームが活力を吹き込みました。ここでは、開発された恐竜ブランドのお土産物や食堂メニューが人気を博し、発見場所・周辺地域の保護・整備が進んでいます。恐竜ブームのお陰で、地域・郷土のことを探求するムードが高まっていることの顕れでもあり、誰もが恐竜と聞いただけでワクワクしてくるものがありまね。

6. ゆうかり大好きコアさんの地域かわら版

連休が始まりました。多くのイベントが予定されています。4月30日は長田神社で「花水木まつり」が開催されます。萬福クイズラリーも同時に開催されます。「インフィオラータこうべ2012」が4月28日から市内5会場で開催されます。「六甲山牧場 May・メーフェスタ」が4月29日、30日、5月3日～6日に開催されます。「布引ハーブ園 GWスペシャル2012」が4月28日～5月6日に開催されます。「フルーツフラワーパーク」では4月28日～5月6日にパフォーマンスショーや体験教室が開催されます。「しあわせの村」では4月28日～5月5日野鳥観察、工作体験などが開催されます。「神戸ワイナリー春の神戸ワインまつり」が5月3日～6日に開催されます。「総合運動公園 花のフェスタこうべ2012」が4月28、29日に開催されます。

7. 来月のゲスト

来月のゲストは水中写真家、宮道成彦さんにお越しいただきます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com